



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化される。好評発売中。関西国際大学客員教授。

5年ほど前、フジテレビ系のテレビ番組『中居正広の終活って何なの!?』で、ご一緒したことがあります。自分が死んだ後、24歳年下の夫が困ったり、落ち込んだりしないようにと終活に励む姿が素敵でした。日本一高齢の芸人さんは、日本一粋な姐さん女房でもありました。「桂子・好江」として東京の女性漫才師のパイオニアであった内海桂子さんが、8月22日に都内の病院で死去されました。享年97。死因は多臓器不全との発表ですが、文句なし、お見事な大往生だといえるでしょう。日本一高齢の芸人は、日本一高齢のTwitterインフルエンサーでもあったようです。Twitterを始めたのは10年前。プロフィール欄には、「大正11年生まれの漫才師です。体

170 女性漫才師 内海桂子



の右側はゲタ骨折、大腿(だいたい)骨折、右乳がん、右手首骨折、右目緑内障と大体やられていきます。でも舞台上で踊りもしています」とあります。

97歳まで生きていけば、人間、病気知らずなわけがありません。故障しては直し、あるいは多少の故障は目を瞑りながら走り続ける「肉体という「乗り物」と、メンテナンスを続けながら上手に付き合うこと。それが、「長生きする」ということの本質なのだと思います。

大正11年生まれの内海さんは、生まれてすぐに関東大震災に被災、その後は軍国主義が台頭し世界大戦へ…と、娘時代は、貧困と空腹の時代を過ごしたはず。だからこそ、食べることをとても大切にしておられ、Twitterにも美味しいものへのこだわりがちらほらと。

江戸っ子で塩辛いものが好き、毎晩の晩酌も欠かせないと行っていた内海さんが、徐々に口から食べられなくなつたのは、今年の初めのようにです。しかし1月17日の97歳の誕生日には、こんな呟きも。〈お陰様で何とか97歳の誕生日に舞台に立てました。両親が駆け落ち先の千葉県銚子で私を生んだが何故か出生届を出さないまま半年が過ぎ、周りからミルクがもらえるよと言われて慌てて届け出たのが今日。同年9月の関東大震災で父親とは別れたままで顔も知らない。そんな中でも、97年間生き抜く事できました(原文ママ)〉

長生きには「笑い」が不可欠

〈本当はどうやって暮らしを立てていくのだろう。まだまだ色んな手当てに届かない小さな店が沢山ある(同)〉

たぐさんの困難を乗り越えた内海さんの言葉は、どれも温かくて、含蓄があります。生き抜くためには、「笑い」が必要だと誰よりも知っていた方も無理ません。不安な今こそ、漫才を見て、笑いましょよ。